



大月 基弘 先生

略歴

- 1999年 広島大学歯学部歯学科卒業
- 1999年 大阪大学歯学部付属病院勤務
- 2002年 赤野歯科医院勤務 分院長歴任
- 2012年 イエテボリ大学大学院専門医課程卒業
ヨーロッパ歯周病専門医・インプラント専門医（European federation of periodontology 認定）
- 2013年 DUO specialists dental clinic 院長
- 2013年 日本臨床歯周病学会・歯周病認定医
- 2014年 大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能再建学講座 有床義歯補綴学・高齢者歯科学分野 所属
- 2016年 日本臨床歯周病学会・歯周インプラント認定医
- 2017年 大阪大学大学院歯学研究科 歯学博士

所属

- 日本臨床歯周病学会：認定医／歯周インプラント認定医
- 日本歯周病学会会員／日本口腔インプラント学会会員／ITIメンバー

化学的プラークコントロールの活用法と提案

DUO大阪歯科医院

大月 基弘

口腔の健康とからだの健康の関係性がどんどん明らかになってきている。かねてから知られていた糖尿病や肺炎との関係だけでなく、高齢者やそのご家族にとって深刻な、「転倒のリスク」や「認知症」にまでも関係していることが分かってきた。超高齢化社会を迎えた日本にとって、健康寿命の延伸が社会的な課題となっているが、高齢者の残存歯を健康に保つ事はこの課題を解決するうえで非常に意義深い。

その一方、歯を失う原因は今も昔も変わらず歯周炎である。歯周炎はバイオフィルムをきっかけに発症する慢性炎症疾患であり、発症や進行を抑制し健康な状態を保つためには、当然のことながらバイオフィルムの除去が重要である。そのためには、定期的なプロフェッショナルケアによるバイオフィルムの除去もさることながら、毎日のホームケアでの患者自身によるプラークコントロールの質がことさら重要である。

しかし、全ての国民に対し、歯科衛生士の技術指導を提供することは現実的には難しい。歯科衛生士による指導を受けたとしても、ホームケアにおいてすべての患者が指導通りに正しく実行することも困難である。とくに歯列欠損部や歯根露出部などが増えた高齢者では清掃が困難な環境が増加する。また近年ではインプラント治療を受けている患者も増加しているが、インプラント周囲は天然歯周囲よりも清掃が難しい場合が多い。さらには高齢化による技量の低下も危惧される。

このような現状から、高齢者にも容易で継続可能なホームケアの方法が求められている。患者の技量によらず、誰が使用してもある程度平均的に良い結果が得られる液体製剤の可能性に着目したい。本セミナーでは、液体製剤の殺菌機序や、天然歯およびインプラントにおけるバイオフィルム抑制効果を踏まえ、効果的な化学的プラークコントロールについて考察する。